

## 第 43 回(令和 6 年度 第 2 回)黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

### 開催概要

- 日 時 令和 6 年 11 月 7 日 (木) 10 : 00 ~
- 場 所 黒部市役所 201・202 会議室
- 出席者 協議会委員 19 名

### 出席者名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考
第 6 条 第 2 項 第 1 号	地域公共交通網形成 計画を作成しようとする市町村	黒部市長	武隈 義一	本人出席	会長
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する公共交通 事業者等	富山地方鉄道株式会社専務取締役	新庄 一洋	自動車部長 柳田 孝	
		黒部市タクシー協会会長	神谷 慶志郎	本人出席	
		あいの風とやま鉄道株式会社 専務取締役・総務企画部長	助野 吉昭	本人出席	
	関係する道路管理者	富山県新川土木センター入善土木事務所長 黒部市長《再掲》	高嶋 茂晴	所長代理 藤田 実	
第 6 条 第 2 項 第 3 号	関係する公安委員会	黒部警察署長	池田 高彦	地域交通 課長 大西 隆豪	
	地域公共交通 の利用者 市民ボランティア	黒部市自治振興会連絡協議会	大上戸 久雄	本人出席	副会長
		黒部市民生委員児童委員協議会長	藤澤 義信	本人出席	
		特定非営利活動法人黒部まちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリーダー	菅野 寛二	本人出席	
		黒部市老人クラブ連合会長	此川 昇	本人出席	
		ウィメンズくろべ	高橋 省子	本人出席	
		公募委員	下石 典江	本人出席	
	政策支援 アドバイザー	中央大学理工学部都市環境学科教授	原田 昇	本人出席	
	その他の当該市町村 が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	新倉 孝礼	欠席	
		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	大田 尊博	欠席	
		北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官	景山 隼人	本人出席	
		富山県交通政策局 地域交通・新幹線政策室交通戦略企画課長	有田 翔伍	主幹 谷村 和則	
		黒部商工会議所会頭	川端 康夫	本人出席	
		一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局 代表理事	川端 康夫	事務局長 坂井 英次 業務推進 グループ長 岡 智和	
Y K K 株式会社 副社長 黒部事業所長		小林 聖子	本人出席		
富山県交通運輸産業労働組合協議会議長 宇奈月商工振興会		石橋 剛 羽柴 進一	本人出席 欠席		

- 事務局：黒部市都市創造部都市計画課：小森部長、山崎課長、西田主幹、中係長、島崎技師、井田技師  
NiX JAPAN 株式会社：馬場、山根

## 会議次第

- 1 開 会
  
- 2 あいさつ（会長 武隈黒部市長）
  
- 3 報告事項
  - (1) 経過報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 1
  - (2) 路線バス事業の収支状況について・・・・・・・・資料 2
  - (3) 今後の協議運賃の取扱いについて・・・・・・・・資料 3
  - (4) 前回の意見に対する検討状況について・・・・資料 4
  
- 4 協議事項
  - (1) 石田三日市線の一部変更について・・・・・・・・資料 5
  - (2) 愛本コミュニティタクシーの一部変更について・・資料 6
  - (3) 新幹線市街地線の一部変更について・・・・・・・・資料 7
  - (4) 電動ミニバス（グリーンスローモビリティ）の運行について・・資料 8
  
- 5 その他
  
- 6 閉 会

## 開会

- 定刻通り開会した。
- 進行：山崎課長

## あいさつ（武隈市長）

- 会長よりあいさつを行った。
 

本日は、第 43 回黒部市公共交通戦略推進協議会を開催したところ、委員各位にはご多用の中、ご出席いただき感謝申し上げます。

また、日頃より本市の公共交通施策にご理解・ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

本市では、昨年「くろべ市民交流センターあおーよ」が開館し、約 1 年を迎えた。来館者の目標は 25 万人/年であったが、目標は 9 月中旬で達成し、1 日当たり 700 人を上回る来館者数であった。中心市街地に出かけやすいまちづくり・出かけて楽しいまちづくりを進めており、これまでバス路線の見直し等に取り組んできているところである。

中心市街地での運行に向けた準備を進めている「電動ミニバス」は、10 月 21 日から 11 月 29 日までの期間で宇奈月温泉街を走行する「エミュー」を活用した実証実験を行い、次年度の本格運行に向けた検討を行っている。

このほか、来年度からは路線バス「石田三日市線」の「あおーよ」や「道の駅 KOKO くるべ」へ延長要望を踏まえ、新規乗入れも予定しており、これらの取組により、中心市街地

の移動の利便性・回遊性を高め、賑わいづくりに寄与するとともに、市民の外出促進につなげたいと考えている。

最後に本日の会議内容についてだが、来年度に向けた路線バスの運行の見直し等について協議させていただき予定としている。具体的には「石田三日市線の道の駅KOKOくろべやあおよへの延伸」、「スクールバスを活用した実証運行の愛本コミュニティタクシーへの移行」、「新幹線市街地線のルート変更と新幹線との接続の改善」、そして「電動ミニバスの運行」についての4件となる。

委員の皆様からは各案件について忌憚のないご意見を頂戴できればと思う。それでは本日はよろしくお願ひしたい。

## 報告事項

- (1) 経過報告
- (2) 路線バス事業の収支状況について
- (3) 今後の協議運賃の取扱いについて
- (4) 前回の意見に対する検討状況について

- 事務局より資料1～4に基づき「経過報告」、「路線バス事業の収支状況について」、「今後の協議運賃の取扱いについて」、「前回の意見に対する検討状況について」の説明を行った。

### ○下石委員

資料「前回の意見に対する検討状況について」に富山市と同じ事業を黒部市で実施した場合の試算結果があるが、この事業だけではなく、福祉分野と連携した場合どのような試算となるかが大事ではないか。新たに予算を設けるだけではなく、福祉と連携できれば医療費や介護に関わるため、縦割りではなく連携して予算を見直してほしい。

私が前回発言した議決方法について説明があったが、一度も賛成の方に挙手を求めることなどはなかった。書面だけの回答について異議を申し上げたが、これは協議会の進め方を確認したものであり、このような回答は望んでいない。

### ○川端座長

福祉と連携した方がよいのではという意見があったが、先日の作業部会では検討し始めており、一般社団法人SMARTふくしラボのご担当者に参加いただき、SMARTふくしラボが取り組む事業と公共交通との連携について検討をしている。

### ○事務局

座長が言われるように、本協議会の前に作業部会を開催しており、福祉分野と公共交通が連携できるか、SMARTふくしラボが実施する取組についてご紹介いただき、どのような面で協力できるか事務局としても検討している。今後もどのような形で協力できるか、引き続き検討していきたい。

## ○川端座長

決議方法については、協議会で意見をいただき、ご意見がなければ承認して進めさせていただいている。挙手による決議が必要であればそのような方法も考えられるがどうか。

## ○下石委員

検討するという回答があっても、どのような過程や検討を踏まえた上で難しいのか具体的な説明がない。協議会で協議されないというのはそのような意味である。大抵の市民は私と同じように決議方法を知らないため、そのように申し上げた。

## ○事務局

検討させていただくがすぐに実行できるかは別の観点だと考えている。検討の過程の中で自動車を所有した場合や公共交通を利用した場合を比較するとともに、財政面において市全体が公共交通にいくら投資しているのかを加味し、持続可能な公共交通を目指し検討している。明確に説明できないのは検討中の途中過程をお伝えすることで逆に混乱させてしまうため、事業がある程度形にならないと表に出すことができないことをご理解いただきたいと思います。

## ○下石委員

資料の 2 ページの収支状況では「目標指標② 公共交通事業の運営効率化」として「路線バス全体の利用者一人当たりの財政負担額を現状維持（△866 円/人以下）に努める」としている。これはひとりが 1 回公共交通で出かければクリアできる数値であり、市民に普通の目線で広報することが大事であり、協議会で数値目標が示されたため、広報を行う際に「ひとり 1 回公共交通に乗ろう。そうすれば赤字額が解消できる。」とダイレクトに市民に伝えなければ市民は市が税金で何とかしてくれると思っている。市民への広報を取り組んでいただきたい。

## ○武隈会長

今年度は 5 月に公共交通の特集をしており、来年度も広報に努めたいと考えている。ただし、1 人 1 回公共交通に乘車しても赤字は解消されない。運行経費は約 1 億 5 千万円で運賃収入が 3,348 万円であり、4 万人が 1 人 1 回 200 円で利用した場合は、運賃収入が 800 万円のため、1 人年間 10 回利用すると赤字が解消する計算となる。

数値での訴え方については検討していく。赤字だから廃止すべきという意見も出てくると考えられるので、その見せ方については、よく吟味する必要があると考える。

## ○原田委員

資料 4 の富山市のおでかけ定期についてであるが、以前、富山市の資料を確認したところ、利用者の増加と併せて、実際に医療費の削減効果が示されていた。福祉と連携する前に施策そのもののクロスセクター効果を確実に抑えておく必要がある。

## 協議事項

### (1) 石田三日市線の一部変更について

- 事務局より、資料 5 に基づき、石田三日市線の一部変更についての説明を行った。

#### ○高橋委員

石田地区に居住しており、石田三日市線はよく利用している。地域の皆さんから「KOKO くるべやプラントへ行きたい」という話がよく出ており、家を出てから 2～3 時間で帰宅できるルートを非常に工夫して作成いただき感謝している。このルートでうまくいくと感じている。

#### ○川端座長

利用している目線からご意見いただき、感謝申し上げます。利用者を増やすための路線の変更であるため、是非利用していただきたいと思う。

ほかに意見がなければ、路線変更に向けて進めていきたいと思う。

### (2) 愛本コミュニティタクシーの一部変更について

- 事務局より、資料 6 に基づき、愛本コミュニティタクシーの一部変更についての説明を行った。

#### ○武隈会長

資料 19 ページにもあるように、本路線は利用頻度が低いことから、事務局では現行の栗虫線と同様に前日の 19 時までに予約が必要な予約式として提案している。高齢者の場合は「体調や天候の関係でその日になってみないと利用できるか分からない」といった方もいると考えられるが、予約式とした場合の効果や影響はどのように想定されるか。知見があれば教えていただきたい。

#### ○原田委員

予約方法によって異なると考えられる。「予約で難しい操作が必要か」、「電話で顔見知りの方が予約を受け付けるのか」、「利用が定常的かどうか」等で変化する。予約方法やバスの利用方法を把握する必要がある。

昨年の 7～12 月の利用は 30～60 人/月と多いが、今年の 8～9 月は 10 人/月と明らかに減少傾向にある。栗虫連絡線の 2 つの曜日運行を廃止して、新規路線を開始した方がよいとの考えかと思うが、改めて確認したい。

#### ○事務局

先生が言われるように、市全体として利用者を増加させる考え方である。栗虫連絡線の利用状況を考慮した上で、週 5 日運行のうちの 2 日を内山・音沢線に振り分けたいと考えている。利用者が急に減少した理由としては、運転手によると頻繁に利用されていた方が体調が

悪くなり、施設に入られたことによるものである。

また、地区に対しての本路線の周知が不足している面もあり、需要はまだあると考えている。運行経費があまりかからない予約式の運行方法としたいと考える。

#### ○川端座長

定期的にご利用している方がいなくなると利用者数が減少する事実があるものの、別の方の利用が見込めないわけでもない。難しい部分もあるが利用者の増加に努めていく必要がある。

ほかにご意見ないようであれば、来年度からの実施に向けて準備をしていきたいと思う。

### (3) 新幹線市街地線の一部変更について

- 事務局より、資料 7 に基づき、新幹線市街地線の一部変更についての説明を行った。

#### ○川端座長

今回の路線変更は、これまで新幹線との接続において速達性を重視してきたが、利用者増加の観点から施設を巡る路線とするものである。

#### ○原田委員

黒部宇奈月温泉駅に行くのであれば、バスだけではなく電車を乗り換えて行く。市役所に行く場合は、グリーンスローモビリティを利用することもある。本日はバス乗車までに 20 分の待ち時間があった。色々な交通も併せて待ち時間を全体で減らすことが必要であり、バスとその他交通との接続についてももう少し配慮できないか。待ち時間が長いとタクシーに乗り換えてしまうため、現実的には新幹線の本数もあるため、さらに待ち時間を短くするのは難しいとは思いますが配慮できないか。

本日、新黒部駅を利用した際には、外国人観光客が非常に多く、宇奈月温泉へ行く往復切符を購入するため窓口に並んで購入していた。そのような時間も踏まえた上で、乗換え時間がもう少し短いとありがたい。

#### ○川端座長

鉄道への接続についても、できるだけ待ち時間が少なくなるように検討をお願いしたい。上り・下り列車があるため、上りに合わせると下りが対応できないなどがあるが、その中で待ち時間が少ないダイヤとしていただきたい。

一部生活路線を追加する案については、新幹線駅への速達性についてはどうか。特に日中は新幹線利用以外の方もおおり、その方の利便性を上げるという考え方である。

#### ○下石委員

公共交通を利用する際、乗換えに待ちやすい時間と長いと感じる時間がある。15～20 分は、トイレ利用のほか焦らずゆとりを持って乗換えできる時間であるが、30 分は長く、どのように過ごそうか戸惑ってしまう。

増加している外国人観光客の多くは新幹線利用者であり、朝の時間など宇奈月温泉に行く

が、市内で新幹線以外の公共交通を利用する場合、30 分の乗換時間は長く感じる。待ち時間を 5~10 分間減らす努力をお願いしたい。

○此川委員

11 月 5 日に「黒部駅西側出口利便性向上基本構想」に関するまち歩き点検を実施した。そ際に出た意見であるが、あいの風とやま鉄道「黒部駅」から本路線を利用し、新幹線を利用する方はどのくらいいるのか。

○事務局

新幹線市街地線の利用者数については、昨年度期間を限定して運転手等で調査した結果がある。あいの風とやま鉄道「黒部駅」で乗車される方は、約 11 人/日である。一方、北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅で降車される方は、約 6 人/日である。

○川端座長

新幹線市街地線は、あいの風とやま鉄道と北陸新幹線の駅を連絡することを目的としており、鉄道利用がさらに増加すると良い。

そのほかご意見なければ、次年度からの実施に向けて準備をしていきたいと思う。

#### (4) 電動ミニバス（グリーンスローモビリティ）の運行について

- 事務局より、資料 8 に基づき、「電動ミニバス（グリーンスローモビリティ）の運行について」の説明を行った。

○下石委員

これまでの実証運行の経過について教えてほしい。

○事務局

実証実験が始まった 10 月 21 日からの 2 週間で利用者数は平均 2 人/便となっている。傾向としては、午後の利用が多い。このほかにもアンケート調査を行っており、利用者の声も本格運行に反映したいと考えている。

○菅野委員

電動ミニバスの利用者数の目標は 20 人/日である。

先日意見を言わせていただいたところ、自治振興会長と副会長とが周知に協力してくださっているが、それでも利用者が少ない。市長の公約のため必ず実施の必要があるのであれば、三日市地区の住民の方には乗車について改めて考えていただきたい。このような利用状況で来年度本格導入してもうまくいかないため、地元の協力が必要である。此川委員は老人クラブ連合会長をしており、連合会の会合の中で三日市の方に協力を仰ぐなど組織的なことを実施すべきではないか。自治振興会も同様である。

くろワンきっぷに関しても公共交通に乗車する人は乗車するが、乗らない人は乗らない傾

向がある。口コミで広まる一方で、他人事のように感じている方もおり、地元が良くなるように考えていく必要がある。

今週まで県のノーマイカーウィークが実施されており、企画乗車券を利用させていただいているが、非常に分かりにくいと感じている。利用者増加のためには、紙の切符も併せて実施すべきであり、毎月日付を決めてキャンペーンを実施するなど、可能ならば市単独事業として検討すべきと感じている。協賛企業では公共交通での出社において遅延を認めているようであるが、当社の社員は誰もノーマイカーウィークに参加していない。公共交通の沿線の企業は公共交通を利用すべきであるが、朝の列車が一本遅れると次の列車がない不便さがあり、朝の運行本数を増やすためにも、もっと公共交通を利用する必要がある。

#### ○下石委員

先ほど市長が赤字の数値は広報しにくいと言われたが、具体的数値を示さなければ市民には伝わらない。市民は危機感がなく「大変なのだろう」と漠然と考えている。財政難を理解してはいるが、自分の個人に関わる数値を示さなければ分からない。黒部市民は理解すればすぐ行動してくださる方ばかりだが、そのきっかけがない。

南北循環線の経費の半分はYKKさんが負担していると話すと「知らなかった」と理解してくれる一方で、財政負担は一人当たりの数値がないため想像が付きにくい状況である。例えば「チケット 10 回分を購入し使い切れれば財政が楽になる」という広報が大事である。菅野委員が言われるように、電動ミニバスが目標を達成しなかった場合には「本格運行しない」と伝えることが広報ではないか。広報のあり方を検討し、伝わる広報としていただきたい。

#### ○武隈会長

先ほどどこまで広報に掲載できるかと申し上げたが、全く掲載しないと発言したわけではない。下石委員の意見を踏まえ、掲載の仕方は検討する。世論を喚起するという点ではこれまでの広報と比較してどこまで攻めたものにできるかは検討したい。

菅野委員が言われたノーマイカーウィークについては状況を確認し、働きかけを行っていく必要がある。

電動ミニバスについては、現在の2倍の利用者があったからといって採算が採れるとは考えていない。福祉との関係や出かけやすさも含めまちづくりとして考えていきたい。先日、YKK不動産の社長さんともお話ししたが、パッシブタウンの第5街区が完成すると敷地内の空間もより良いものになるため、その利用も含めて総合的に周知していきたいと思う。

菅野委員が発言された自治振興会については、今後地区懇談会もあるため会議の場を通じてお願いしたいと思う。ある議員は1軒、1軒、家を回り電動ミニバスに乗車しようと働きかけていただいたとも聞いている。市からも電動ミニバスの利用について伝えていきたい。

#### ○川端座長

「乗らなかったらなくなる」という危機感を持たせたい委員の皆さんのお気持ちはよく理解できるが、それがなかなか難しい状況である。他の方から「そんなに赤字なら公共交通をやめてしまえばどうか」、「費用を別のことに使ってはどうか」という意見を聞くこともあり、そのような意見をお持ちの方もいることを理解いただきたい。私は是非公共交通を残してほ

しいため、もっと利用してほしい思いである。

○下石委員

私は黒部市に来て 7 年になるが、私の周りにはそのような方はいない。実態をお話しすれば市民レベルでは納得して、自分たちも協力すべきで認識が不足していたと感じる方が多い。

川端座長が言われたように考えていると大多数の人に伝わらない。川端座長の主観ではなく広報としてすべきことをせず、数人に言われたからと広報を行わないのは民主主義に反している。

○川端座長

私の発言はそのような方もいるということである。決して無理やり公共交通をやめることを通そうとしているわけではない。利用者の方の意見を重視する必要がある。

○武隈会長

ヨーロッパでは公共交通にお金使うのは当たり前であるが、日本においては都会では公的負担なしで運営しているため、公共交通にお金を使うのはおかしいという意見が多く、公共交通へ公費を投入すべきとの意見は少ない。道路整備など車利用者に対しても公費を使用しているが、道路を使う車利用者にとっては道路さえあればよいという考えである。

残念ながら、公共交通に関する公費負担の考え方については、公費を負担してもよいという人よりも公費負担は無駄と捉える人は多い。

先ほどの川端座長の発言は主観ではなく、そのような方がいるという発言であり、色々な方の理解を得るための広報については記載方法を検討すべきである。広報に掲載した瞬間に「それほど赤字ならやめればよい」という極端な意見は出てくる。電動ミニバスに関しては黒字、赤字の観点だけではなく、福祉の観点も含め進めていく必要がある。

○下石委員

公共交通が赤字であることは明らかなため、市民の意識を変えていくことが必要である。広報を仕事にしている方に短いフレーズで考えていただくなど、伝えたいことを伝える方法を模索する必要があると考えるのでご検討いただきたい。

○原田委員

公共交通サービスを普通に提供した場合、日本の地方都市では赤字にならざるを得ない。海外でも公共交通の収支は赤字であるが、まちの活性化や二酸化炭素削減などの効果も含めて、皆さんが支持している政策の中で位置付けられている。電動ミニバスも市長の公約で市民が支持した政策のため、まずは頑張って実施するとしても悪くはない。市民に選ばれた市長の強みであり、その中で公共交通を利用できるまちにしたいという思いで政策を実施している。

交通まちづくりを行う中で、岡山の方から聞いたところによると、人生を 85 年とし、20 歳までは免許を持たず、75 歳で免許を返納すると、85 年中 35 年は車を持たないことになる。車を利用する年代でも怪我や飲酒した場合には車を使えない。一生の中で車を使えない期間

は一定期間あるため、全体として考えるべきではないかと言われていた。車を運転できなくなった場合、公共交通がなくどこにも出かけられないまちなになるのはいかがなものかということである。これを学生に話すと「最近では 100 歳まで生きますよ」と返ってくる。そうすると 100 年中 40 年となる。

もう一つの考え方としては、高齢者を家族が送迎しているため、その負担でよいという考えもある。その場合は未婚で家族サポートが受けられない人を含めた単身高齢者に対し、社会全体で支えていく考え方がある。暮らしをしていく中で本当に公共交通がなくてもよいのかである。

#### ○川端座長

公共交通のあり方については発言があったように難しい部分がある。

様々な方法論の中で市民に危機感を持っていただく切り口もあるし、ほかの方法で高齢者の公共交通の利用を高めていく方法もあるため、よい事例があれば教えていただきたい。

#### ○下石委員

ノーマイカーウィークの話があったが、通勤者でなくとも対象期間中に公共交通を利用できるようになると利用のきっかけづくりになる。ノーマイカーウィークの書面を確認したところ、我が家は対象ではなかったが、そのような高齢者は多いため、トライしたい方に機会を与えていただきたいと思う。

#### ○事務局

ノーマイカーウィークは県の事業であり、県にも要望を伝えていく。

#### ○谷村委員

ノーマイカーウィークについては、県では秋の「電車・バスで行こう！」として公共交通の良さを一度でも理解していただくために、今週までキャンペーンを実施している。今年では事業の名称を変えてリニューアルし、県庁のホームページでは利用手順など掲載し、俳優の池田航さんを起用するなど、電車やバスの利便性を PRしながら実施している。お得な乗車券については、土日祝は利用できないが、平日は原則誰でも利用できるため、誤解のないように情報発信していきたいと思う。

キャンペーン期間は 11 月 10 日までで、お得な切符の利用期間は 8 日までとなっている。委員の皆様からの周知もお願いしたい。

#### ○川端座長

電動ミニバスに関しては実証実験も実施しており、その後に利用者の声も反映させていきたいと考えている。もしかすると生活路線としてこちらへ運行してほしいという経路の要望も出て、他路線も見直せるようになる気もしている。利用者の声を聞きながら改善し、そのためにはたくさんの方に利用していただきたいため、PRも進めていただきたい。

こちらもよろしければ、次年度に向けて準備を進めていきたい。

## その他

- その他の事項については、事務局ほか意見がないことを確認した。

## 閉会

- 副会長よりあいさつを行った。

本日は長時間にわたり協議いただき、感謝申し上げます。

先ほど自治振興会にも意見があったが、自治振興会でも年末に向け会合が多く予定されているため、自治振興会連絡協議会の会長とも相談しながら電動ミニバスのPRについて検討していきたい。

川端座長には円滑な議事運営をいただき、感謝申し上げます。本日は来年度以降の路線バスの運行ルート等の見直しや電動ミニバスの運行についてご協議を頂いた。

報告事項にもあったように、路線バス事業の収支状況は依然として厳しい状況であるが、今回の見直し等により、公共交通の利用者数の増加につながることを期待する。

委員各位においては、引き続き、各々の立場から公共交通の利用促進、維持・発展にご指導ご鞭撻を賜るようお願い申し上げ、閉会のご挨拶に代えさせていただきます。

- 事務局

以上をもって第 43 回黒部市公共交通戦略推進協議会を閉会する。ご多用の中、ご出席いただき感謝を申し上げます。

以 上